食物として

芥川龍之介

金沢(かなざは)の方言(はうげん)によれば「うまさうな」と云ふのは「肥(ふと)つた」と云ふことである。例へば肥つた人を見ると、あの人はうまさうな人だなどとも云ふらしい。この方言は一寸(ちよつと)食人種の使ふ言葉じみてゐて愉快である。

僕はこの方言(はうげん)を思ひ出すたびに、自然と僕の友達を食物(しよくもつ)として、見るやうになつてゐる。

里見弴(さとみとん)君などは皮造りの刺身(さしみ)にしたらば、きつと、うまいのに違ひない。菊池(きくち)君も、あの鼻などを椎茸(しひたけ)と一緒(いつしよ)に煮(に)てくへば、脂(あぶら)ぎつてゐて、うまいだらう。谷崎潤一郎(たにざきじゆんいちらう)君は西洋酒で煮てくへば飛び切りに、うまいことは確(たしか)である。

北原白秋（きたはらはくしう）君のビフテキも、やはり、うまいのに違ひない。宇野浩二（うのかうじ）君がロオスト・ビフに適してゐることは、前にも何かの次手（ついで）に書いておいた。佐佐木茂索（ささきもさく）君は串（くし）に通して、白やきにするのに適してゐる。

室生犀星（むろふさいせい）君はこれは――今僕の前に坐つてゐるから、甚だ相済（あひす）まない［＃「甚だ相済（あひす）まない」は底本では「甚だ相済（あひす）まない」」気がするけれども――干物（ひもの）にして食ふより仕方がない。然し、室生君は、さだめしこの室生君自身の干物を珍重（ちんちよう）して食べることだらう。

（昭和二年四月）

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
　　　１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
　　　１９７９（昭和54）年４月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
２００７年６月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。